

いま伝えたい

——被爆者から

2015年・被爆70年
NPT再検討会議へ

学徒動員で厳島に

みなさん、戦争ってイメージできますか？ 今のうちにデパートなんかに行っても何も売っていない。食べ物もない。着るものは薄い木綿のシャツが一枚だけで、家からの灯りが漏れないように、黒いカバーをつけて暗い所でごはんを食べていました。みんなそうでした。

私は学徒動員(※)で、厳島(宮島)にある火薬や弾薬を作る工場で働かされていました。13歳でした。終戦前から火薬が足りなく、作った弾薬を運ぶトラックはよく空になっていて、そこに乗るのが楽しかった。

8月6日、8時15分。

〈6〉戦争の風化 心の中で泣いています

雷のように光るなか、あら？ と思ったらバーンと音がして白い落下傘のようなものが見えました。広島に原爆が投下され、きのこ雲が上がっているのが見えました。私は防空壕にいて助かり、翌日船で宇品港へ向かいました。川には真っ赤な火傷をした人が入り、死体があふかふかと浮かんでいました。どの人の顔も猿のように真っ赤でした。爆心地から1・8キロの広島市南竹屋町の自宅にとにかく帰らなければ、と友人と別れました。

丘の上で母を弔い

自宅にたどり着くと、家も庭の松の木も焼け、かまどだけが残っていました。ぼう然としている私に、隣のおばさんが「お母さんは共済病院にいるから行きなさい」と声をかけてくれました。歩いて病院まで行くと、入り口には死体が転がっていました。やっと会え



東京・八王子市 中西靖之さん(84)

は良い方でした。他の人は山のように積まれて燃やされてしまったから。妹は島根に集団疎開をして助かりましたが、母と弟たちは亡くなり、4人家族のうち助かったのは2人だけです。

戦争を覚えておいて

父は1943(昭和18)年に病気で亡くなり、母は原爆で亡くなりました。周りの人から助けられて私は生きてきました。苦勞して勉強とアルバイトをし、武蔵野音楽大学を卒業して、中学校教師になりました。大学の卒業式に、みんな校門の前で家族と写真を撮っているときに1人だったのが寂しかったなあ。

いま八王子で平和展をしています。見ないでスーッと通っていく人がいる。それだけ世の中が平和で、戦争が他人事なのかと思います。

私は心で泣いています。悲惨な戦争体験をたくさんの人に話したい。こんな戦争があったことを覚えておいてほしい。そして、世界中の核をなくしたい。こんなにひどい核使用は、どんな理由であれ、絶対にダメです。

※学徒動員 第二次世界大戦末期に深刻な労働力不足を補うために、中等学校以上の生徒や学生が軍需産業や食料生産に動員された。



小中学生を含む17人が参加した「八王子憲法カフェ」で体験を語る中西さん(8月8日)